

2011年度事業計画

● 2011年度事業計画の基調

2011年度事業計画は、会員・勤労者の皆様との連携により震災復興の支援に努めるとともに、将来のろうきん運動発展に向けた磐石な土台造りを行う1年であると位置づけ、役職員が一体となって各種経営課題の遂行に取り組んでまいります。

ろうきん理念の実践・永続的な役割発揮

最高・最良の商品・サービスの提供

2011年度事業計画

計画の基調

- ① “未来に向けた新たな中央ろうきん”を支える磐石な土台造りの1年とします
- ② 業容・収益・内部管理などバランスの取れた事業運営を展開します

1. 「会員・推進機構」との連携

- 会員・推進機構との取り組み
- 生協との連携強化
- CSRの取り組み

2011年度事業計画における3つの重要テーマ

2. 「取引基盤」の拡充

- 取引会員の拡充
- 利用者の拡大
- 生涯取引・個人メイン化の推進

3. 「経営基盤」の強化

- 経営体質の充実
- 組織力の強化
- 業務の改善・効率化

内部管理態勢の強化

- コンプライアンスの強化
- リスク管理態勢の整備

特別課題

- 全国合併総括と今後の対応
- 次世代システム移行への対応
- 10周年記念キャンペーン・イベントの実施
- 東日本大震災からの復興支援

- 2011年度は、中央労働金庫が将来にわたり勤労者の生活向上に貢献していくための磐石な土台造りを行うとともに、今後の進むべき方向性を示していく重要な年度となります。業容・収益・内部管理などバランスの取れた事業運営を図るべく、事業計画に以下の3つの重要テーマを設定いたしました。

3つの重要テーマ	1. 「会員・推進機構」との連携	中央労金は、今後も会員のパートナーとして、会員とともに発展することを目指します。会員・推進機構との連携を強化して会員組合員の生活応援に取り組むとともに、生協を中心に地域の勤労者にも取引の輪を広げていきます。
	2. 「取引基盤」の拡充	勤労者の生活向上に幅広く貢献し労働金庫の役割発揮を図っていくため、取引会員・利用者の拡大や、取引チャネルの整備、勤労者の生涯取引につながる取り組みを展開していきます。
	3. 「経営基盤」の強化	労働金庫の永続的な役割発揮には強固な経営基盤の構築が不可欠であり、コスト削減の徹底や組織力の強化、業務の改善・効率化の取り組みを実施しながら、バランスの取れた金庫経営を実践していきます。

また、この3つの重要テーマを支える金融機関として取り組むべき課題として「内部管理態勢の強化」を設定してまいります。

- 上記の重要テーマと合わせて、「全国合併総括と今後の対応」「次世代システムへの移行」「10周年記念キャンペーン・イベントの実施」「東日本大震災からの復興支援」の4点の特別課題を設定しました。これら課題は上記重要テーマと密接に結びついており、一体的に取り組むことにより、強固な経営基盤の構築と労金の役割発揮の土台造りに資するものです。

- ・全国合併の取り組みや総括の中で浮き彫りになった経営上の課題等に、中央労金として率先して取り組んでまいります。
- ・業態統一課題である次世代システム移行については、円滑な移行が最優先であるとの認識のもと、万全の体制で臨んでまいります。
- ・会員・推進機構との強固な絆を再確認しながら、10周年のご愛顧への感謝をかたちにする活動に積極的に取り組んでまいります。
- ・東日本大震災の被災者向け緊急特別融資制度等を通じ、復興支援へ向けた取り組みを積極的に進めてまいります。

- これらの取り組みを着実に実行し、会員・勤労者とのコミュニケーションを深めていくことにより、次年度以降の中期経営計画策定につなげていくこととします。

2011年度主要計数目標

預金残高増加額	1,000億円	自己資本比率	9.70%以上
融資残高増加額	600億円	OHR(オーバーヘッドレシオ)	78%以下
コア業務純益	160億円		

※OHR(オーバーヘッドレシオ)=業務粗利益に占める経費の割合